

研究・調査報告書

報告書番号	担当
89	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Cigarette, alcohol, and caffeine consumption: risk factors for spontaneous abortion. 喫煙、アルコール、カフェイン消費と自然流産危険度	
執筆者 Rasch V	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Acta Obstetrica et Gynecologica Scandinavia 2003;82:182-8.	
キーワード Smoking, Alcohol drinking, Caffeine consumption, Spontaneous abortion	
要 旨 <p>自然流産と喫煙・飲酒習慣、カフェイン消費量との関連を検討するために、症例対照研究を実施した。症例は、330例の妊娠初期の6-16週に自然流産を経験したものであり、対照は6-16週の時点で流産していない1168例の妊婦である。年齢、妊娠回数が、職業を考慮して分析された。</p> <p>出産回数が2回以上の妊婦は自然流産の危険性が1.78倍と有意に高かった。学生妊婦は0.55倍と低かった。生活習慣では、1週間に5杯以上の飲酒者、あるいは、カフェイン1日375mg以上の消費者ではそれぞれ4.84倍、2.21倍、流産の危険度が高かった。この研究では、喫煙は自然流産のリスクにはなっていなかった。</p> <p>妊娠中の週5杯以上の飲酒とカフェイン1日375mgの消費は自然流産の危険性を高める可能性がある。</p>	